

一步先を行く大学に聞きました!

大正大学 仏教学部仏教学科 国際教養コース

●大正大学▶1926年設立▶6学部11学科。学生数は約4800人
▶建学の理念は「智慧と慈悲の実践」。2016年に創立90周年を迎えた。



仏教学部仏教学科 助教
野村島 弘美

のむらじまひろみ ●2011年National Academy School of Fine Arts, New York卒業。メトロポリタン美術館木造美術保存修復課勤務、フリーランスのアーティストとしての活動を経て、2015年4月より現職。専門は絵画、ディプロマ(絵画)。

日本文化、日本人の精神性を 英語で世界に伝えられる人材を育成

英語で話す中身も学ぶ
仏教学部の英語教育

「国際教養コース」
でめざすグローバル人材像を
教えてください。

外国人とコミュニケーションを取る際、英語が話せても、どんなことを話したらよいかわからない、というのでは国際人とは言えません。もともと日本人の暮らしには、仏教の思想や考え方が息づいています。仏教を除外して日本

人としてのアイデンティティを確立することは不可能でしょう。そのような考えもあつて、あえて仏

教学科に国際教養コースを設置しました。本コースでは日本の文化や日本人の精神性を語ることができ、その魅力を世界に発信できる人材を育てたいと考えています。

徹底した英会話教育と
自主学習を促すしくみ

英語力はどのように養成し

が担当します。

「コミュニケーション英語」の授業は週2回。これだけでは語学習得をめざすのに十分な時間とは言えません。そこで、自主的に英語に触れる時間を増やすしくみが必要だと考え、イングリッシュ・マイレージという制度をつくりました。これは、授業以外で英語に触れた時間を自己申告させ、マイルに換算して、1000マイル(100時間)貯まれば1単位与えるというもの。「英字新聞を読む」「英語で手紙を書く」といった行為でもマイルが貯まります。学生には定期的に計画書を提出してもらい、私から助言しています。

指導時は、どのような点に
配慮していますか。

学生はスイッチがすぐ入ってしまえば、積極的に学習を進めてくれるのですが、いつスイッチが入るのかわかりません。常に背中を押していきたいという姿勢ですが、押しすぎるのも違うと思います。人によって力加減や押すタイミングが異なるので、学生の学習意欲をできるだけ細やかに見ていくようにしています。

また、本コースでは、徹底した英語教育だけでなく、日本の伝統文化や芸術を体験的に学ぶことも重視しています。実際に体験することによって、日本という国の歴

ていますか。

本コースの学生は1学年15人程度で、英語の指導にあたるのは、私を含め本学の教員2人と英会話学校の講師です。

このコースでめざすのは、外国人と不自由なくコミュニケーションが取れるレベルの英会話力の養成。そのため、学生には1、2年次の「コミュニケーション英語」で、徹底的に英会話のトレーニングをします。この授業は教員1人に対して学生2、3人という少人数

史・文化を感じ取り、考えを深めることができるからです。

具体的には1、3年次に、「日本人の生活と仏教」「日本の伝統美研究」などの選択科目を学びます。アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れており、華道や茶道などを実際に体験し、伝統文化を感じてもらっています。京都での実習の機会もあり、華道、茶道の家に指導を受けています。

今後の課題は
「読む」「書く」力の伸長

コース内に留学の機会を設
けていますか。

コース独自の留学制度はありませんが、協定校のハワイ大学での短期語学研修や、奨学金制度を設けた1年間の協定留学が可能です。また、今年の2月に他学部が主催するオーストラリア短期留学に本コースの学生が自主的に参加しました。2週間の滞在期間中に3度、英語によるプレゼンの機会がありました。引率した教員によると、本コースの学生は非常に積極的に参加していたと聞きます。

コース設立から2年が経過
し、見えてきた成果と課題は?

本コースの学生には、年に2回、外部英語検定試験の受験を義務付

数スタイル。講師はベルリッツのネイティブスピーカーです。

本コースには、もともと英語が得意な学生以外に、「英語は苦手だが、将来的な必要性を感じ、大学できちんと習得したい」という学生も入学してきます。英語に苦手意識がある学生にとつても、英会話指導のノウハウがあるプロが教えたほうがよいと考え、ネイティブの外部講師にお願いして会話中心の授業を開講しています。その他の英語授業は、本学の教員

けています。1期生に関しては半教を越える学生が入学時に比べて100点以上アップしています。

また、定期的に3から5分程度のスピーチテストを実施していますが、英語での発信力が伸びていると感じます。日常的にネイティブスピーカーと会話する機会があるので、人前で英語を使って話すことへの心理的なハードルが下がってきているようです。

英会話力中心の取り組みなので、リーディング、ライティングの力は、こちらが考えていたほど伸びてはいないようです。やはり、基礎が定着していない学生には、基本的な英文法とリーディングの基礎をしっかり身に付けさせる必要性を感じています。本コースの学生に適した方法を模索中です。

最後に、学生に寄せる期待
をお聞かせください。

1、2期生に関しては観光業や英語を武器にできるサービス業への就職をめざす者が多いようです。その一方で、授業で仏教に触れるうちに、日本文化に関する仕事に就きたいと考えるようになってきた学生もいます。いずれの道に進むとしても、本コースで習得した英語やコミュニケーションスキルを、何らかの形でビジネスに生かしてほしいと考えています。



授業外で英語を話す機会を増やすため、昼休みに英会話サロンを開催(週4回)。ネイティブスピーカーの教員とランチを食べながら、自由な話題で気軽に会話を楽しむことができる。

イングリッシュ・マイレージ制度

学生は英語の自主学習、授業外で英語に触れた時間を「イングリッシュ・マイレージパスポート」に記入して教員に提出する。

獲得マイル例

- ・英字新聞を読む.....1回1マイル
- ・字幕なしで洋画を鑑賞する.....1回2マイル
- ・海外でホームステイ体験をする.....1日10マイル
- ・英語で手紙を書く練習をする.....15マイル
- ・英語のスピーチコンテストに出場する.....100マイル



実際に学生が記入したパスポート